

リサイクルを通して 地球も人も豊かに

小 泉 剛

(秋田エコブラッシュ株式会社 専務取締役)



■リサイクルの追求

当社はプラスチックのリサイクルを業務としており、「少しでも多くのプラスチックをリサイクルして、もう一回社会に戻す」ということをやっています。効率よく進めるためにどうしたら良いのか、日々色々と考えながら取り組んでいるところです。

リサイクル取組のうち一つ目のリサイクルは、家庭から出てくるプラスチックごみについてです。この「家庭プラごみ」は東北エリアのものが主となりますが、種々雑多なものが入っており、選別作業を行うことで可能な限り多くのプラスチックをリサイクルできるようにしています。

二つ目は、企業から出てくる廃プラスチックです。従来は焼却されていたものも多かったようですが、当社では未使用の食品包装フィルム類を主として年間1,000トン前後リサイクルしており、ここ数年増加傾向にあります。

企業からの廃プラスチックリサイクルでの特徴は、「当社でリサイクルできるプラスチックのみ」を価値ある資源として有価買取している点にあります。

昨今では、プラスチックは環境汚染などから「嫌われ者」と思われがちです。しかし、プラスチックは「生活を豊かにする大切な資源」であることも間違いありません。一例ですが、ペットボトルは「薄く、軽く、落としても割れない」ことがメリットとして挙げられますが、使うことができなくなったらどうなるのでしょうか。「嵩張り、重く、割れやすい」ガラス製の一升瓶の使用に戻れるのでしょうか。この例からも分かるように、プラスチックは非常に重要な資源であることは間違いありません。当社はこの「大切な資源を使い続けるために」できる限りのリサイクルをしていかなければならないと考えております。

■課 題

市民の方々が当社工場に見学に来られると、「プラスチックはリサイクル工場に持ってくれば、元のプラスチックに戻ると思っていた」とよく話されます。ですが、実際にリサイクルしても元通りのプラスチックに戻るものはほとんどありません。

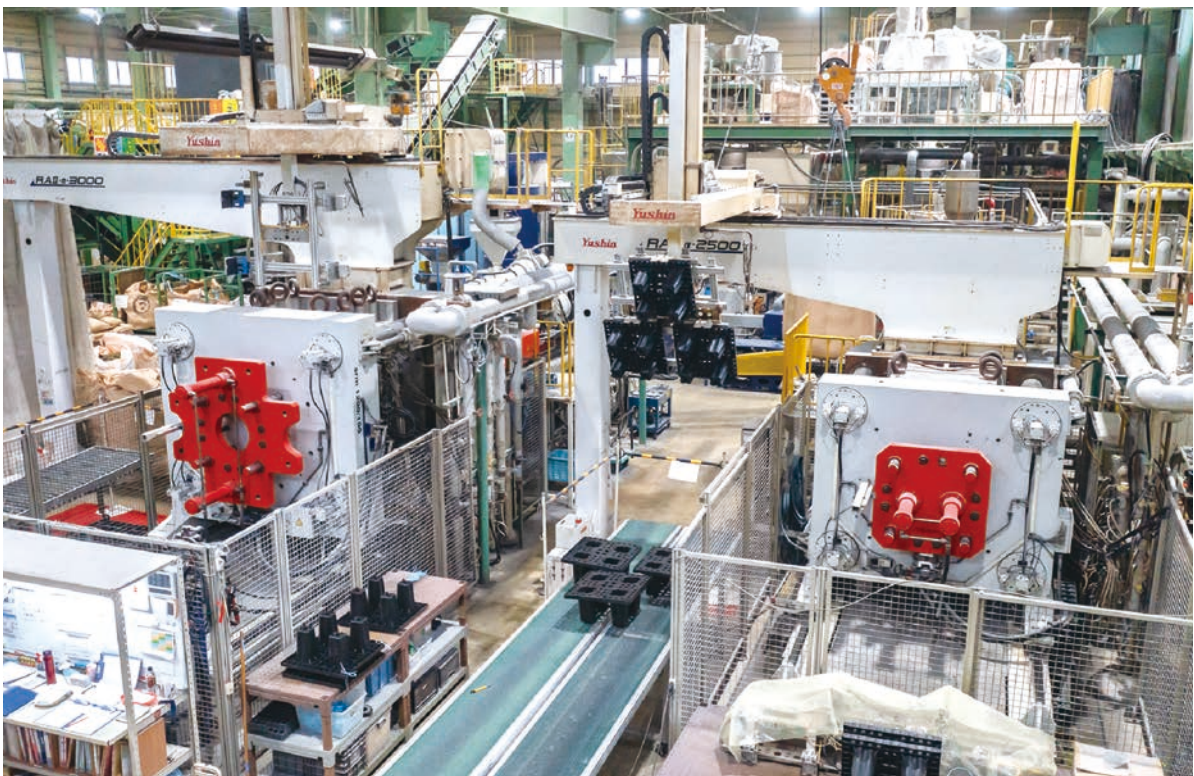
食品包装フィルムを例としますと、3層や5層などの積層になっているものが大半を占めており、単層のものはほとんどありません。さらに、(プラスチックの)種類が

異なるプラスチック層を張り合わせているものが多いため、リサイクルしても元のプラスチックには戻らないのです。このような面からも、リサイクルしやすい包装材の選択、設計などをもっと進めていく必要があると思います。例えば、菓子袋を開けたときの切片が本体から離れないようにするだけで、リサイクル率はもう数パーセント上がります。小さな切片は機械で素材判別ができないためです。そのような包装設計に改めていくべきだと考えています。

ペットボトルのキャップも同様です。ボトルキャップだけで分別できていれば、100%マテリアルリサイクル（プラスチックに戻すリサイクルのこと）できます。しかし、キャップを他のプラスチックごみの中に混ぜてしまうと、前述のように小さすぎるため選別できず、マテリアルリサイクルできません。選別されなかったものは、「セメントをつくる際の助燃材」や「固形燃料（RPF）」といったサーマル（熱）リカバリーされることになります。

再度プラスチックとして使うことができるものが、分別されなかったことにより、熱源としてしか活用できなくなってしまいます。分別がリサイクルでは重要であるという一例です。

繰り返しになりますが、企業側での包装材の選択・設計、そして消費者による分別、さらに当社のようなリサイクラーにおいては、より高度な技術を用い、できるだけ多くのプラスチックごみを再生プラスチックに作り変えることが重要であると認識しています。



（大型射出成形機）

■創業20周年

当社は本年の2月13日に創業20周年を迎えました。これも当社にかかわるすべての皆様のおかげでございます。心より感謝申し上げます。

過去を振り返り気付いたことは、プラスチックに係る重大事件はここ6～7年に集中しているということです。2016年頃からプラスチックの置かれている社会的状況に変化が生じてきました。最初の大きな事件は2017年に中国が廃プラスチックの輸入を止めたことです。廃棄プラスチックが100万トン前後も国内滞留し社会問題となりました。

2019年には廃棄物の輸出入を制限するバーゼル条約の規制対象に廃プラスチックが追加され、日本から海外へは相手国の同意がない限り廃プラスチックを出せないことになりました（実質輸出不可）。さらに、2022年にはプラスチック資源循環促進法が施行され、大量生産・大量消費から資源循環を前提とした経済活動へと舵が切られました。また、同年にはイギリスでプラスチック包装税がスタートしました。これはプラスチック包装材の中に30%以上のリサイクル材が含まれていなければペナルティー課税を行うというものですが、イギリスに追随するEU諸国もあり、リサイクル材がどんどん必要になってきています。

そして、2023年11月にケニアで開催された「プラスチック汚染国際条約策定に向けた第3回政府間交渉委員会（INC3）」では、「石油から生産される1次プラスチック」の生産制限に議論が及んでいます。このような状況下、新たなプラスチックを生産し続けることは難しく、リサイクルプラスチックの重要性が益々高くなっています。

私は2015年12月から現職に就いておりますが、この期間の状況変化の激しさに驚きを隠せません。2016年頃には企業を回って「リサイクル可能なプラスチックがあったら売っていただきたい」とお願いをしても返事すらいただけない状況でしたが、現在では国内有力企業とも一緒に仕事をさせていただけるようになっています。

■環境への取組み

「2050年カーボンニュートラル」については、スケジュールを厳密に意識し社会全体で確実に進める必要があります。できなければ、これから生まれてくる人類に私たちが作った負債を全て負わすことになってしまいます。そうした危機感のもと、当社は一つの取組みとして「海浜清掃」を、冬場を除き、月に1回実施しています。

回収した海浜ごみの中から、当社でリサイクル可能なプラスチックごみを持ち帰り、海洋プラスチックごみを原料としたリサイクル材料を製造しています。また、その重量相当分を金額換算し日本UNEP(国際環境計画)協会へ寄付しています。さらに、海洋プラスチックごみを原料として「ハーブポット」(バジルの種と培養土が付属)を製造し、能代市内の全小学4年生にプレゼントさせていただいております。

環境への取組みで一番重要なことは、現状を認識してもらうことだと思います。実行可能な完璧な解決策は「誰も分からない」のであり、「一人一人の小さな行いの積み

重ね」が重要になるからです。「能代の海がどうなっているのか次世代を担う子供たちに興味を持ってもらいたい」、そんな願いを抱き、取組みを継続しています。

また、当社は2021年9月より、秋田県と東北電力様が共同で提供する「あきたEネ！オプション水力100%」（秋田県産水力発電由来電力）を75%使用し、操業によるCO₂発生を大幅に削減することができました。また、2025年までに使用電力全てを再生可能エネルギーにすることを目指しています。



(海浜清掃)



(海浜ごみリサイクル製品「ハーブポット」)

■今後について

プラスチックごみを有用なリサイクルプラスチック材料に作り変えるには、プラスチックの性能（強度や耐衝撃性等）を変える改質技術が必要であり、その知見を更に高めていかなければならないと考えています。

また、残念ながら本県全体のプラスチックごみのリサイクル率は他県よりも低いと言わざるを得ず、この状況を変えるための一翼を担える企業にならなければならないと考えております。

「プラスチックは人の生活に欠かせない重要な資源。この資源を使い続けるために」社会に役に立つ企業になれるよう、今後も取り組んで参ります。



(本社・工場)

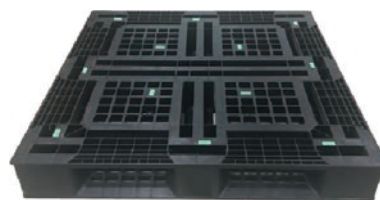
弊社製品



超軽量U字溝150



畦畔カバー



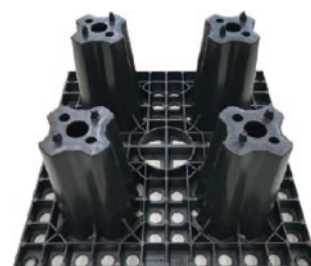
パレットPS-D4-1111



エコプラU字溝300



ドライキューブH



雨水貯水槽 AE-1

会社概要

- | | | |
|----|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 会社名 | 秋田エコプラッシュ株式会社 |
| 2 | 代表者 | 代表取締役社長 木村 好伸 |
| 3 | 所在地 | 〒016-0122 能代市扇田字扇淵11番地 1 |
| 4 | 電話番号 | 0185-58-5600 |
| 5 | F A X | 0185-58-5601 |
| 6 | U R L | https://www.ecoplash.co.jp |
| 7 | 設立 | 2004（平成16）年2月13日 |
| 8 | 資本金 | 2億9,500万円 |
| 9 | 従業員数 | 64名（2023年12月現在） |
| 10 | 年商 | 8億3,000万円（2023年3月期） |
| 11 | 事業内容 | 容器包装プラスチックリサイクル及び成形品製造事業 |
| 12 | 経営理念 | リサイクルを通して地球も人も豊かに
一、廃棄物を有効利用し、資源循環型社会構築に寄与
一、秋田発のリサイクル製品を全国へ
一、リサイクル事業を通じた地域貢献 |